

鎌ケ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	112いきいきとした高齢社会の形成		
施策のねらい (めざす姿)	高齢者が生きがいをもち、その人らしく暮らしています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	健康福祉部次長
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	マネージャー氏名	西山 珠樹

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	誰もが住み慣れた地域で安心して生活し続けられる地域社会の実現のために必要となる自助、互助、共助、公助の組み合わせから成る「地域包括ケアシステム」の構築が必要である。	③改革・改善内容	団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、介護状態になっても最期まで住み慣れた地域で安心して生活し続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されるよう「地域包括ケアシステム」の構築をさらに進めていくことが必要である。
②①に基づく取り組み結果	「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、医療と介護の連携や地域における互助・共助を促進するための協議体の設置を行った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	概ね65歳以上の高齢者	意図(対象をどうするのか)	住み慣れた地域で、生きがいを持ち、その人らしく暮らし続けるようにする。
②施策の概要	高齢者の生きがいづくりのための拠点整備、社会参加機会の拡大に努めるとともに、地域包括支援センターを中心とする地域包括ケアシステムの構築をさらに推進する。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化率は増加の一途をたどり、要介護認定率の高い後期高齢者は、団塊の世代が75歳となる2025年には2万人(H31.4.1現在14,959人)を超える見込みである。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29～30年度の施策の成果	健康な高齢者に対する一般介護予防事業やシルバー人材センターへの支援を行い、地域で生きがいを持てるよう環境づくりを行った。また、地域密着型サービスの拡大や認知症サポーター養成講座を実施し介護状態になっても地域で暮らせる環境づくりを行った。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値(2年度)
	i	65歳以上要介護認定率	%	13.7	14.4	15.3	15.5
	ii	趣味や習い事などをしている高齢者の割合(高齢者アンケート)	%	73.2	—	元年度測定	増加
	iii						
③基本事業成果指標	i	「健康である」と答えた高齢者割合(高齢者アンケート)	%	67.5	—	元年度測定	増加
	ii	シルバー人材センター会員数	人	484	491	496	700
	iii	一般介護予防事業参加者数	人	—	1,436	1,713	増加
	iv	地域密着型サービス定員総数	人	342	321	353	120
	v	地域包括支援センター整備数	箇所	3	3	3	3
	vi	認知症サポーター養成講座受講者数	人	6,590	8,148	9,947	5,000
	vii						
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成29年度決算	平成30年度決算	市民一人あたり事業費(30年度決算)		令和元年度予算		
事業費(千円)	7,944,365	8,483,347	(単位:円) 77,556 円		8,423,620		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	高齢化の進展に伴い認知症高齢者等が増加し、介護が必要な人が増加していくため、健康な時期からの介護予防対策や要支援要介護状態になっても地域で暮らせるような環境整備を行っていく必要がある。		
②総合評価	2概ね達成	③総合評価の理由	一般介護予防事業や認知症サポーター養成事業等は増加し達成している。また、介護認定率は伸びているが、目標値以下に抑えることができた。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑ 拡充
②上記方向性の説明	地域包括ケアシステムの構築の中心となる地域包括支援センターの担う役割が増大しており、職員配置や相談体制の強化を図るため予算の増加が予測されるため。
③特に重点化する事務事業	包括的支援事業に要する経費